



触れ合い

シルバー人材センター会員と徳山聖母保育園園児が協力して農作業

this month
HighLight

今月の注目 **2**

シルバー人材センターが主催する耕作放棄茶園を活用した「ジャガイモの種芋植え作業」は3月13日、水川区で実施。現地には、園児たちとシルバー会員の楽しそうな声が響き土で手を真っ黒にしながら、さわやかな汗を流しました。

一列に並んで、シルバー会員の手ほどきで丁寧に種芋を植える園児たち。6月に迎える収穫が今から楽しみです。

シルバー人材センターが企画 耕作放棄茶園をいも畑に

シルバー人材センターが主催する耕作放棄茶園を活用した「ジャガイモの種芋植え作業」は3月13日、水川地区の畑で実施されました。町の大きな課題となっている耕作放棄茶園の拡大に歯止めをかけるため、町の耕作放棄地対策事業の補助を活用した同センター初の試み。同センター会員23人と徳山聖母保育園の3歳以上の園児24人が参加して共同で作業しました。

午前9時。現地に向くと、シルバー会員たちが既に集合し、畑作業を開始していました。うねを整え、くわを使って大きめの石や茶の木の根っこなどを取り除いています。直前まで放棄茶園だったこの畑は、元々水田だったとのこと。補助金を使って畑に整備し直したと言っても、最終的には人力、それも人海戦術が物を言います。24人が協力し合って「あとはジャガイモの種芋を植えるだけ」の状態にしました。この日、植えたのはマークインと男爵という2種類のジャガイモ。会員たちは「おでんなどの具として最



「適だ」とうれしそうに話しました。

畑を等分に区切り、下の段に男爵、上の段にメークインを植えることになりました。うねにそって30センチ間隔で穴を掘り、あとは種芋を植えるばかりの状態にして、本日のパートナー徳山聖母保育園の園児の到着を待ちます。

午前10時、保育園から徒歩で移動した園児たちが現地に到着し、会員に向かって大きな声であいさつ。会員から作業の概略が説明されたあと、共同作業が始まりました。

会員たちが種芋を園児に手渡し、あらかじめ掘られた穴に植えていくよう指示を出すのと、「僕もやりたい」「こっちにもつと芋をちょうだい」と、園児たちの元気な声が畑に飛び交いました。

約30分にわたって実施された今回の作業で、20アールほどの畑一面に種芋が植えられました。この芋は、6月頃には収穫できるとのこと。参加した会員からは「収穫時期が今から楽しみ。また子どもたちと一緒にやれたらいいですね」といった声が聞かれました。



また収穫の時に会おうね。上手に植えました。



園児の元気なあいさつ。



会員が下準備を。



写真手前はメークイン。

安全安心な野菜作りで放棄茶園解消を



シルバー人材センター
奥野恵美子さん

会員は全て無償ボランティア。毎回こういった作業に多くの会員が参加してくれるのでありがたいです。今回は園児たちも参加してくれたので交流という効果もあったのでは。収穫量は二の次。安全・安心な野菜作りを第一に取り組んでいきたいと思っています。

農作業を通して人と人がつながる効果

耕作放棄地の解消という目的に加えて、子どもたちの農業体験の場の提供、異世代間の交流、会員同士の交流促進といったさまざまな効果も生み出していったこの作業。企画した同センター事務局の奥野恵美子さん（梅高）は「今回ジャガイモを植えた隣の畑（約20アール）も同事業を活用して借りたもの。サトイモや自然薯を植えるよう作業を進めています。耕作放棄茶園の解消とともに、将来的には有機栽培に移行し、安心安全な川根の野菜作りを目指します」と話していました。